

「エコノミスト未来賞2026」

代表取締役 安間信裕が産業革新部門を受賞

再生可能エネルギー事業の利益の一部を、日本の伝統・農業の継承へ



株式会社NO NAME(本社:愛知県名古屋市)は、代表取締役 安間信裕が「エコノミスト未来賞2026」産業革新部門を受賞したことをお知らせいたします。

「エコノミスト未来賞2026」(主催:エコノミスト未来賞2026実行委員会、後援:毎日新聞出版株式会社)は、これからの社会や産業の未来を切り拓く企業や人物の挑戦を称えるアワードです。2026年は、171社のノミネートの中から、6部門・20名が選出されました。

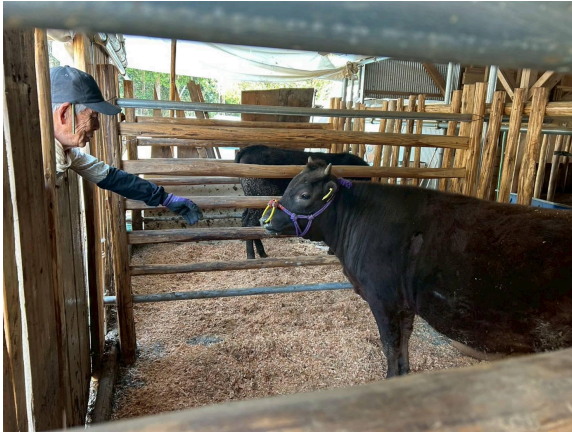
今回、安間は、再生可能エネルギー事業を通じた社会課題への取り組みに加え、本業で得た利益の一部を、日本の伝統文化や産業、農業などの継承支援へつなげる「循環型ビジネス」が評価され、産業革新部門を受賞しました。

■ 受賞事業「循環型ビジネス」

NO NAMEでは、太陽光発電所や系統用蓄電池をはじめとする再生可能エネルギー事業を展開しています。現在は、昼間に余る電気を蓄え、電力需要が高まる時間帯に活用する「系統用蓄電池」の開発にも取り組んでいます。

こうした本業で生み出した利益の一部を、日本の伝統文化や産業、農業など、次の世代へ残していきたいものの継承支援に活用しています。その一つが、「特産松阪牛」の継承支援です。牛舎の整備や飼育環境づくり、販路・広報面での支援などを通じて、地域で牛を育て続けられる環境づくりを進めています。

本業で利益を生み、その一部を社会や文化の継承に活用する。そこで生まれたつながりや共感が、再び本業の成長につながり、さらに支援できるものを増やしていく。こうした事業と社会への取り組みを循環させることが、NO NAMEが目指す「循環型ビジネス」です。



■ 再生可能エネルギー事業の原点

再生可能エネルギー事業の原点は、2011年の東日本大震災です。震災直後、安間は約30名の仲間とともに宮城県気仙沼市へ入り、携帯電話の通信インフラ復旧に携わりました。被災地でインフラ復旧に携わった経験から、社会を支えるインフラの重要性を実感するとともに、これからのエネルギーのあり方について考えるようになったことが、再生可能エネルギー事業へ参入するきっかけとなりました。現在は、太陽光発電に加え、系統用蓄電池など、社会を支えるエネルギーインフラ領域へ事業を広げています。

■ 代表取締役 安間信裕 コメント

このたび「エコノミスト未来賞2026」産業革新部門に選出いただき、大変光栄に思います。今回評価いただいた「循環型ビジネス」は、再生可能エネルギーと蓄電池という本業を成長させ、その利益の一部を、日本の伝統文化や産業、農業など、「最後の職人」となりつつある方々の技術を、次の世代へ継承していくことにも力を入れています。

そして今回の受賞は、私一人のものではなく、日々それぞれの場所でNO NAMEを支えてくれている社員みんなの力があってこそのものだと思っています。今回の受賞を励みに、企業理念である「愛される会社になろう」のもと、これからもNO NAMEらしい挑戦を続けてまいります。



【代表プロフィール】

名前: 安間信裕

生年月日: 1978年6月18日

出身地: 静岡県

趣味: 芸術鑑賞

休日の過ごし方: 旅行

過去に経験したスポーツ: 野球

座右の銘: 誰もやらないことをやる、

誰もやらない規模でやる

会社概要

会社名: 株式会社NO NAME

代表者: 代表取締役 安間信裕

所在地: 愛知県名古屋市

URL: [株式会社NONAME](#)

事業内容: 建設を起点に、再生可能エネルギーの開発から蓄電所の構築までを一貫して手がけ、エネルギーインフラそのものをつくる事業を展開しています。同時に、松阪牛の肥育支援や農業再生、しめ縄や自然布などの伝統文化継承にも取り組み、地域の現場に根ざした産業支援を行っています。事業で生み出した利益を地域に循環させることで、エネルギー・農業・文化を横断した地域経済そのものを支える仕組みづくりを目指しています。

【報道関係者からのお問い合わせ先】

株式会社NONAME広報担当: 三浦

TEL: 070-3154-0660

E-mail: kouhou@kk-noname.co.jp